絆 ～KIZUNA～ 芥川かおる 市政レポート

ざま男児!!

第9号　広報誌「絆」
芥川かおる後援会
発行日：平成 27年 3月
事務所：座間市入谷4-1881-45
発行責任者：野口利夫

座間市生まれ・座間市育ち！
元気いっぱいのざま男児！

伝統文化を重んじる♪

いつでも
全力です！！

農作業が大好きです。
お米、作ってます。

座間市の安全・安心を
守ります！

子や孫が誇れるまちづくり！実現！

熱い男

『芥川かおる』はこんな男!!

挑戦なくして
成果なし！

いつでも市民目線！

**皆さまの声を
お聞かせください。**

公式サイト：
http://www.akutagawakaoru-kizuna.com

facebook ：
https://www.facebook.com/kaoru.akutagawa.18

芥川かおる議員多いに語る

《Sさん》

お疲れ様です。各地域の皆さま、大変精力的に活動されておりますね。

《芥川議員》

後援会の皆様には、様々なお立場の中、並大抵でないご理解とご協力を賜り、感謝の一念です。疲れるどころか、皆さまの力強いご支援に勇気をいただき、元気いっぱい活動しております。そして、責任の重大さを痛感致します。

《Iさん》

若い時、自立心を強く持たれ、頑張っておられましたが、なにか影響されたことはありますか。

《芥川議員》

小説家の**吉川英治**さんに共鳴しておりました。吉川英治さんはお父様の事業の失敗により小学校を中退され、丁稚奉公をし、大変なご苦労をされました。ご自分を顧みられ「私には学はない。しかし苦難の中で、学業では学べない社会学や人としての道を学ぶことができ、こうして成長することができました。」と言っておりました。私は二歳半で父を亡くし、母に、兄・姉と三人育ててもらい、やっとの想いで通わせてくれた定時制高校、この吉川英治さんの言葉を見た時、いつまでも母に甘えることは許されない、常に自立しなくてはとの一心でしたが、多くの方と出会い、人として、社会人として、必要な良識と常識を培うことができ、お陰様で会社を設立することができました。本当に感謝であり、私は幸せ者であります。これからも誰に恥じることなく、人の道を歩み、成長させて下さった社会へのご恩に報いるため、しっかりと期待に応えていく覚悟でございます。

《Aさん》

なぜ新たな飛躍へ決意をされたのですか。

《芥川議員》

平成二四年九月、大好きな座間の未来の発展のため熱い思いで市議に立候補し、当選させていただきました。以来、市議会定例会の全ての一般質問に登壇し市民の声を市政へ反映すべく発言してまいりました。質問し答弁の中に県政・国政・又近隣都市との強固な連携なくして市政が抱える課題の解決はできないことが多々ありました。手をこまねいていては時が経ち停滞する。これではいけないという思いが込み上げ、それらを解決できる立場に挑戦し、国、県との強固な架橋となるべく決意をいたしました。

《Mさん》

市議経験二年半、まだ早いのではないかという声もありますが。ある方も全く同じでありました。どう思われますか。

《芥川議員》

確かにそう言われる方もいますし、偶然ある方と同じ、市議経験二年半でございます。しかし、現在多くの方に「しっかり頑張ってくれ」「期待しているよ」と励必要であり、その立場にしていただければ自由民主党の政策集団の下、叩かれ叱咤されても、不屈の精神をもって精進し、期待に応えられる成長をめざし、支援してよかったと思われる活躍をしてまいります。

《Oさん》

これから人口減少といわれ、大変な時代が予測されておりますが、どう思われますか。

《芥川議員》

超高齢化・少子化時代を迎え、人口減少が予測され昨今、地方創生の必要があると言われております。私達の生活は常に県、市町村行政の自治体の基礎的サービスを中心に営まれております。これから各自治体がいかに的確に将来を把握し、適正な洞察力、判断力をもち、そして英知をもって地域の活性化をどう図っていくかが強く問われてまいります。机上だけでなく、現場主義を基本として、市民一人一人の声にしっかりと耳を傾け、**自ら調べ、考え、行動**をしていかなくてはならないと考えます。

《Kさん》

これからも謙虚な姿勢で取り組むことを望みます。

《芥川議員》

これからも多くの方々と出会い、その出会いを大切にし、真摯に、そして謙虚に活動してまいります。そして嘘はつきません。虚勢は張りません。誠実に活動してまいります。そして「生まれ育ち、成長させてくれた大好きな座間」そして県政の発展へ、燃える情熱で政治活動に専念してまいります。私利私欲は一切ありません。至らぬところがあれば遠慮なくご指摘、叱咤下さい。いつまでも初心を忘れることなく、課せられた責任と使命へ邁進してまいります。どうぞ、変わらぬご指導ご協力を心よりお願い申しあげます。